

育苗から田植えまでのポイント

- ①健苗育成のため、**適正な水管理とこまめな換気を行いましょう。**
- ②高温登熟を回避するため、**コシヒカリの田植えは5月15日を中心に行いましょう。**(中山間地は除く)
- ③栽植密度**70株/坪**、植付深さ**3cm**、植付本数**3~4本/株**となるように努めましょう。
- ④田植同時散布除草剤による薬害が出ないように、健苗育成に努め、**適正な植付深さを守りましょう。**
- ⑤田植後3日間(活着まで)は深水管理、**その後は3cmの浅水管理とし、初期分けつの発生を促し**ましょう。

1. 適正な育苗管理

- ①ハウス内の温度が**25℃を超えないように換気**をしましょう。(図1参照)
- ②湯き気味でも、**夕方の灌水はなるべく避け、根の伸長を促しましょう。**(翌朝たっぷり灌水)
- ③**田植え1週間前頃からは、夜間もハウスを開け外気に慣らし**ましょう。

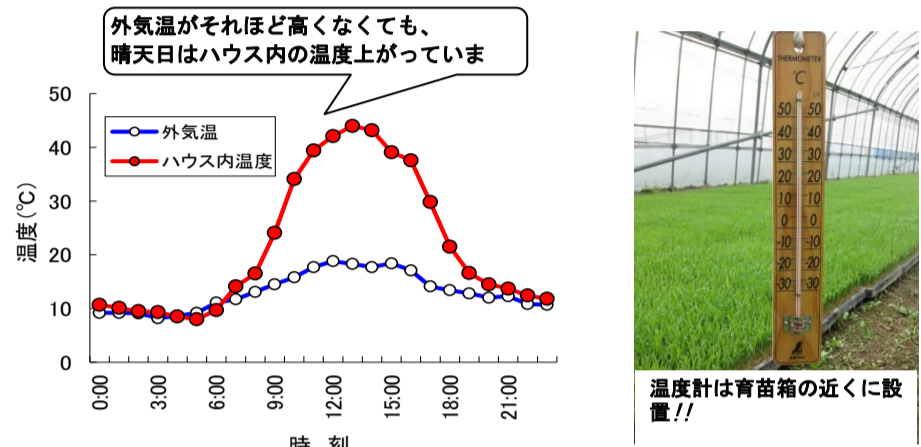


図1 晴天日の外気温とハウス内温度の推移

2. 苗箱施薬

薬剤名	使用時期	適用病害虫	使用量 (g/箱)	成分数
エバーゴルワイド箱粒剤	播種時(覆土前) ~ 移植当日	いもち病、白葉枯病、紋枯病、ウンカ類、イネスズウムシ、イネドオイムシ、フタオヒコヤガ、ニカメイチュウ、ツマグロヨコバイ、イネツトムシ、コブノメイガ	50	4

※ 育苗後のハウス内で野菜等を作付けする場合、苗箱施薬剤は**ハウスから搬出後に施用**して下さい。(こぼれた薬剤が土壌に残り、野菜に吸収されてしまいます。)

3. 田植えのポイント

(1)代かき作業、田植えまでの水管理

- ①代かきから田植えまでの日数は**5日以内**とし、**間隔が空きすぎないように**注意しましょう。
- ②**少なめの水で代かき**を行い、稲ワラや雑草をしっかりと鋤込むとともに、**ほ場の均平**に努めましょう。
- ③**田植同時除草剤の使用について**:根が露出していると薬害が出やすくなるので田面が固く土の戻りが悪いときは田植同時散布を避けましょう。**(その場合は田植え1週間後に散布)**

(2)基肥量

- ・**土壌条件**や**前年作物(大豆跡)**等に応じた**基肥施用量**を守りましょう。
- ※ 施用量の目安は、平成28年度の『冬期座談会資料 P16~17』を参考にして下さい。
- ・田植前に、**肥料の比重や田植機の開度設定を再確認**しましょう。

(3)栽植株数・植付本数・植付深さ

- ・田植時に栽植株数や植付本数を必ず確認しましょう。(5月15日以降の田植えは、70株植えにしましょう。)
- ・近年、苗が徒長気味となり、**深植え傾向**となっているので、注意してください。(図2参照)

【栽植株数】 70株/坪	【植付深さ】 3 cm程度	【1株当り本数】 3~4 本/株
-----------------	------------------	---------------------

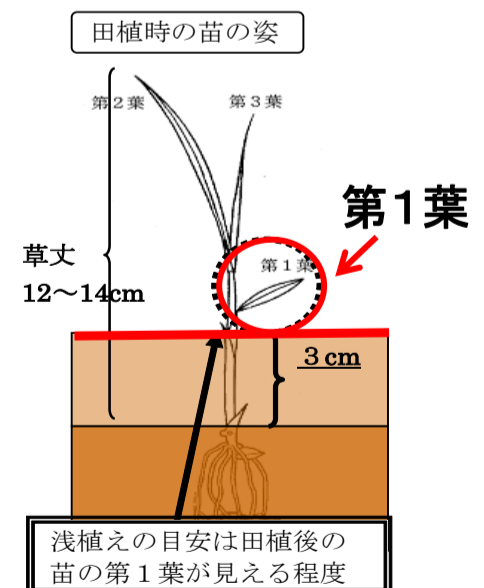


図2 植付深さの確認方法

◆◆◆ 有害鳥獣駆除実施のご案内 ◆◆◆

有害鳥獣駆除隊では、「カラス等による水稻への被害防止」のため、下記の期間依頼地区においてカラス駆除を実施します。
 小矢部市 平成28年5月 1日(日) ~ 平成28年6月26日(日)まで (活動日は、原則日曜日のみ)
 高岡市福岡町 平成28年4月21日(日) ~ 平成27年6月20日(月)まで(予定) (愛鳥週間 5/10 ~ 16 は除く)

春の農作業安全運動展開中!! 運動期間 平成28年4月1日 ~ 5月31日まで
 [慣れた作業 慣れた心に 潜む事故]

裏面に続く

4. 田植え後の水管理

浅水管理で
分けつ促進

田植え後3日間(活着まで)

深水管理
(5cm程度)

活着後 **浅水管理(3cm)**

田植え
2週間後～ 軽い田干し
田植え
溝掘り
田植え
1ヶ月後～ 中干し

※浅水管理中でも、低温や風の強い日は深水にしましょう。
※田がわくようなら、暖かい日に水を入れ替えましょう。

- 田植え後は速やかに入水し、植え傷みを防ぐため苗が水没しない程度の**深水管理(3日間が目安)**としましょう。
- 活着後は**浅水管理で初期分けつの促進**に努めましょう。
- *深水管理が続くと、軟弱徒長になったり、藻類の発生や表層剥離を招く恐れがあります。

感覚よりも
数値で確認!!
水深スケールを
活用しましょう。

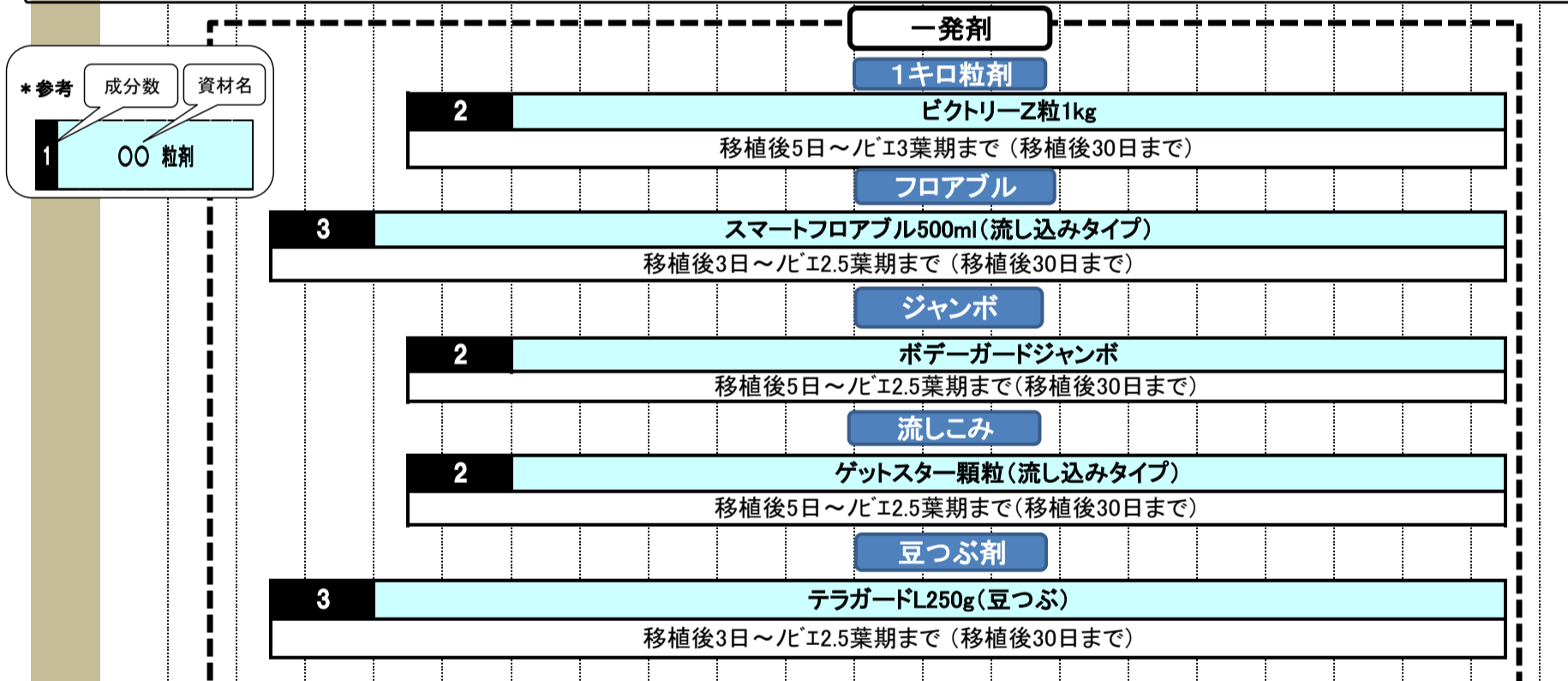


5. 除草剤散布

- 除草剤効果を高めるため、田面を**均平**にし、畦畔からの**漏水防止**に努めるとともに、**散布後7日間**は**止水状態**(「落水」や「かけ流し」をしない)を保ち、水田外への流亡を防ぎましょう。散布後7日間の期間中に水がなくなったら、ゆっくりと差し水をしてください。
- 除草剤使用の際は、使用基準(散布時期・使用量)を必ず守り、使用後は**栽培記録簿**等に記帳しましょう。
※フロアブル剤やジャンボ剤等については5cm以上の深水状態で散布し、散布後7日間は止水状態としましょう。なお、藻類や表層剥離が発生しているほ場での使用は避けましょう。
- 除草剤成分を6～7成分程度としましょう。

[田植後日数] →

雑草の少ないほ場タイプ:体系是正剤(初中期一発剤)で対応



ノビエ等の雑草が多いほ場タイプ:体系処理(初期剤+中期剤 または 一発剤)で対応

